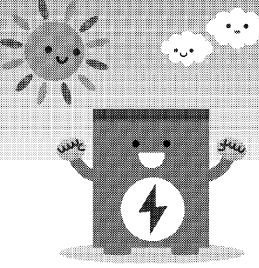
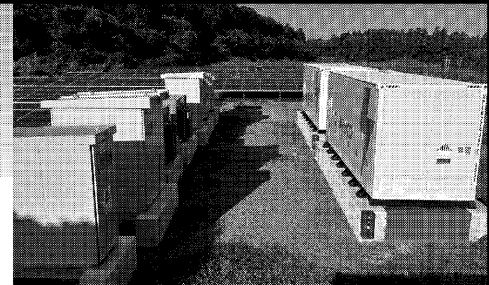


大型蓄電池 事業ご提案 します!



- 売電収入 UP
- FIT 終了後も
発電所を有効活用
- 節税対策



電気のトータルプロデュース
株式会社 堀内電気
HORUCHI ELECTRIC COMPANY

ご注文・お問い合わせはこちらまで
☎ 0120-026-180
<https://www.horuchi-e.co.jp>
堀内電気 総社

太陽光発電PPA【屋根貸して事業】はお任せください!
HECスマートエナジー株式会社
HEC

〒812-0861 福岡県福岡市博多区蒲田1丁目5番46号
TEL 092-513-3377 FAX 092-513-3388

長崎営業所 〒851-3423 長崎県西海市西彼町八木原郷1990-9
TEL・FAX 0959-28-1001

大分営業所 〒899-7305 大分県豊後市都大崎町飯沼1142-4
TEL・FAX 0974-79-3142

出水営業所 〒899-0121 鹿児島県出水市米ノ津町22-28
TEL 0996-79-3151 FAX 0996-79-3154



世の中の タイヘンに挑む

地球温暖化・自然災害・コロナ感染拡大等、私たちが
取り巻く環境はかつてないほどの厳しさを増しています。
石橋製作所は、様々な事業を通じて、パートナーとの
共創により1つ1つの社会課題解決に挑戦します。

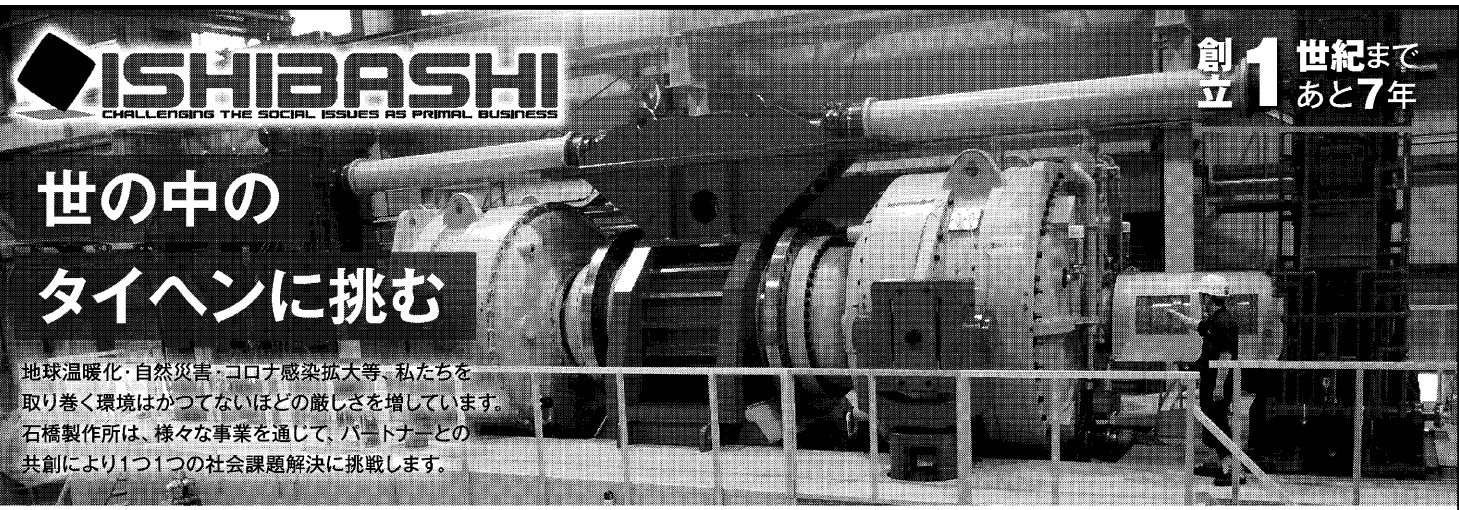
2008年
グッドカンパニー大賞
優秀企業賞受賞

地域未来牽引企業

株 石橋製作所 / 株 石橋技販
会社 会社

本社工場 / 福岡県直方市大字上頓野4636-15(直方工業団地内)
〒822-0003 TEL:0949(26)3711 FAX:0949(26)3902

東京支店 / TEL:03(5473)7850
〒105-0012 東京都港区芝大門1-4-4(ノア芝大門5F)



創1世紀まで
あと7年

LRQA CERTIFIED
UKAS QUALITY



再生可能エネルギー

次世代エネルギー

未来を 守る

再生エネ、最大電源に

今年2月に閣議決定された「第7次エネルギー基本計画」では、再生エネを最大限導入する方針が示された。2040年度のエネルギー需給の見直しは再生エネ41.5割程度、火力31.4割程度、原子力2割程度。再生エネの割合が23年度の22.9%から大きく引き上げられ、初めて最大電源に位置付けられた。

エネルギー政策の要諦である「S3E(安全性・安定供給・経済性)十安定供給・経済性」に、再生エネや原子力に、特定の電源や燃料などの脱炭素電源を最源に過度に依存しないことを図ることは、脱炭素化に加え、わが国の産業競争力の強化にもつながる。近年、特に注目されているのが日本発のペロブスカイト太陽電池や浮体式洋上風力の開発・実用化だ。

今年2月に閣議決定された「第7次エネルギー基本計画」では、再生エネを最大限導入する方針が示された。2040年度のエネルギー需給の見直しは再生エネ41.5割程度、火力31.4割程度、原子力2割程度。再生エネの割合が23年度の22.9%から大きく引き上げられ、初めて最大電源に位置付けられた。



脱炭素社会の実現において、太陽光や風力、水力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入は大きな力を与える。今年2月、政府は再生エネを最大限導入する方針を示した。ペロブスカイト太陽電池や浮体式洋上風力発電の開発・実用化が期待される。また水素などを用いた次世代エネルギーも利用拡大に向けて開発が進んでおり、今後のエネルギー動向が注目される。

有力企業の製品・技術

石橋製作所

石橋製作所は小型から超大型の歯車装置の開発・製造をコア事業とする。「世の中のタイヘンに挑む」を事業ミッションに、地球温暖化対策をはじめ、さまざまな社会課題解決型ビジネスにパートナーシップミッション技術で貢献。パーパスである「今日よりもっとまぶしい明日を」の実現を「平時のイノベーション創出」という切り口で取り組む。

また風力発電分野では国内外のさまざまなグローバルプレーヤーとオープンな協業を模索し、大型化と可用性という課題解決に取り組む。再生可能エネルギー用歯車装置の課題解決のファーストコールカンパニーとして顧客ニーズに応えていく。

堀内電気

総合電気設備業の堀内電気は、太陽光発電に蓄電池を併設した「太陽光併設型蓄電池事業」に取り組んでいる。日中の発電量が需要を上回る際には電力会社からの出力抑制に応じて蓄電し、需要が高まる時間帯に発電する仕組みだ。

市場価格にプレミアムを上乗せして売電できるフィードインプレミアム(FIP)制度を活用する。さらに需給調整市場にも参入することで、経済性と系統安定化の両立を図る。

まずは熊本県内にある自社の大規模太陽光発電所に蓄電池を導入し、実証と収益性の向上を目指す。蓄電池の有効性を広く発信するとともに、再生可能エネルギーの普及促進に貢献していく考えた。

「ペロブスカイト」万博で実証

ペロブスカイト太陽電池が見込める。2025年大阪・関西万博では、世界最大規模の同電池が西アフリカの曲面屋根のうち約250枚に設置される。従来は、設置が難しく、設置した電気がターミナルの夜間照明に使われる。同装置は日本国際博覧会協会(万博協)に、また一部の会場スタッフはフィルム型の同電池を背中部分に取り付けたユニフォームを着用した。発電した電力で冷却ファンやスマートフォンなどをUSBに充電できる。また一部の会場スタッフはフィルム型の同電池を背中部分に取り付けたユニフォームを着用した。発電した電力で冷却ファンやスマートフォンなどをUSBに充電できる。

NEEDOは、映像や水素運搬船の模型などを用いて未来のモビリティや水素社会の姿を発信する。

排出しないクリーンなエネルギーとして注目国・現代自動車(ヒュンダイ)は、4月10日、韓国で世界初公開した新型FCV「The all-new EXO(ネッソ)」を日本で初披露した。2026年上期に発売予定。近未来の技術やそれによりもたらされる生活の変化を体感できる企画展示「Tokyo Future 2035」では、新エネルギー産業技術総合開発機構(NEEDO)が映像や水素運搬船の模型などを用いて、未来のモビリティと水素社会の姿を紹介した。

水素エネ加速

水素利用は水素燃料電池車(FCV)など求められる。モビリティ分野が先行しており、9日までは、新エネルギー産業技術総合開発機構(NEEDO)が映像や水素運搬船の模型などを用いて、未来のモビリティと水素社会の姿を紹介した。

モビリティけん引

2050年、企業は水電解装置に韓国で世界初公開した新型FCV「The all-new EXO(ネッソ)」を日本で初披露した。2026年上期に発売予定。近未来の技術やそれによりもたらされる生活の変化を体感できる企画展示「Tokyo Future 2035」では、新エネルギー産業技術総合開発機構(NEEDO)が映像や水素運搬船の模型などを用いて、未来のモビリティと水素社会の姿を紹介した。

浮体式洋上風力稼働

日本は国土が狭いうえに山が多く、陸上での風力発電に適した土地は多くない。そこで、日本の四方に広がる海でも風車を海底に固定した「ハイブリッドスパイ」を世界で初めて採用。コストダウンと安定性の向上を図った。8基の風車が設置された。26年1月には、日本初の浮体式洋上風力のウインドファームが長じて五島市の家庭や企業に供給される。

浮体式「スパイ」は、浮体は「スパイ」と呼ばれる細長い円筒形状をしており、上部には鋼を、下部にはコンクリートを併用した「ハイブリッドスパイ」を世界で初めて採用。コストダウンと安定性の向上を図った。8基の風車が設置された。26年1月には、日本初の浮体式洋上風力のウインドファームが長じて五島市の家庭や企業に供給される。

次世代型地熱、官民で実用化

安定供給が見込める地熱発電のさらなる導入も期待されている。経済産業省は4月に「次世代型地熱推進官民協議会」を設置した。坑井掘削により地中に熱交換器を設置して水を循環させる「クロージング」や、マグマ上部の高温・高圧の流体(超臨界熱水)を利用する「超臨界熱水」を利用する。超臨界熱水など、次世代型地熱発電の30年代早期の実用化に向けて、官民が一体となって議論を進めている。

J-POWER

未来をよくする

電気がなければ、今の社会は動きません。
新しいエネルギーがなければ、未来の地球は守れません。

一人ひとりのしあわせのために、世界をもっとよくするために。
今を支えて、未来を変える。
J-POWER、それは、世界のパワーになる仕事です。

今と未来をよくするパワー
J-POWER Group

BLUE MISSION 2050

J-POWER(電源開発) / 電源開発送変電ネットワーク / J-POWERビジネスサービス / J-POWERハイテック / J-POWERジェネレーションサービス / J-POWERテレコミュニケーションサービス / J-POWER設計コンサルタント

